

2022年度 授業改善アンケート集計結果に対する意見

—共通教育研究センター—

センター長 岩佐光晴

まず全学共通科目のアンケートにおいては、各項目ともにほぼ全体の平均値に近い数値を得た。これはその授業内容に関して、一定の水準は保てていることを示すと考えてよいと思われる。授業の手法においては、「外部講師招へい」「フィールドワーク」「学生によるコメントペーパー」の項目で、全体と比較して高い数値を示しており、より自由度が高く教員と学生との交流が積極的に行われているといえる。受講生が身についたと感じた資質・能力については「構想力」「柔軟な発想力」「俯瞰力」「課題発見力」「課題解決力」「コミュニケーション力」「人脈形成力」「統率力」「協働力」において、全体よりも高い数値を示している。これらは、いずれも社会に出てから役に立つ能力であり、全学共通科目のもつ役割と特質を浮き彫りにしていると思われる。こうした傾向は、前期のアンケート結果にもうかがえるが、後期ではより明確化しているように思われる。全学共通科目は全学部に開放されているため、授業を通して学部を越えた学生の交流が可能であるという大きな特色を持っている。また従来の学問分野の枠組みを越えた学際的な内容の科目設定も可能で、そうした授業運営の成果が、アンケート結果に反映しているといえよう。今後も全学共通科目の役割と特質を十分に踏まえながら、その存在意義をさらに高めていきたいと考える。

スポーツ・ウェルネス実技では、ほとんどの項目において全体の平均値よりも近い数値を得た。授業の手法においては「フィールドワーク」「グループワーク」の項目が全体よりも高い数値を示しているが、これはスポーツ科目の特性を示しているといえよう。また受講生が身についたと感じた資質・能力については「コミュニケーション力」「人脈形成力」「統率力」「協働力」において全体よりも際立って高い数値を示しているが、本科目が人間形成の上で極めて有効であることを物語っている。この傾向は前期と同様であり、今後も本科目の特質をさらに高めた授業運営を行っていききたいと思う。

以上